

第3章

子育て中の女性に向けた アンケート調査の概要



第3章 子育て中の女性に向けたアンケート調査の概要

1 調査の目的

育児中の家庭に対しては多様な施策が行われているが、育児期にある女性は自尊感情が低い傾向にあり、そのことが社会復帰への障害となっていることが分かっている。本調査では、育児期女性の育児状況、自尊感情、レジリエンス等について実態を把握することを目的として、育児期女性に対してアンケート調査を行った。

また、アンケート調査の結果を補完する目的で、同意者に対してグループインタビュー調査も併せて実施した。グループインタビュー調査の概要についても、以下に示す。

2 調査の内容と方法

(1) 調査の設計

① 調査対象者

板橋区・北区在住の、第1子が0歳から5歳である女性

② 対象者数

3,000人（人口按分によって、板橋区1,840人、北区1,160人）

③ 抽出方法

板橋区、北区の住民基本台帳から単純無作為抽出

(2) アンケート調査の方法

自記式調査票を郵送にて配布し、郵送にて回収（催促状：1回送付）

(3) 調査期間

2019（令和元）年5月27日～6月17日

(4) 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
全体	3,000	1,459	48.6%
板橋区	1,840	815	44.3%
北区	1,160	644	55.5%

(5) 調査項目

- ① 基本属性
- ② 配偶者、パートナーについて
- ③ 同居の子どもについて
- ④ 就業状況について
- ⑤ 退職前に最後に就いていた仕事について
- ⑥ あなた自身の年収、世帯年収について
- ⑦ 子育てで得られるサポートについて
- ⑧ ワーク・ライフ・バランスについて
- ⑨ 心理的指標について（自尊感情、人生満足度、レジリエンス、親性尺度）
- ⑩ 性役割についての態度
- ⑪ 自分自身についての自由記述
- ⑫ 行政への期待

(6) 倫理的配慮

本研究の調査対象者に対する倫理的配慮として、以下の点につき、対象者にアンケート票とともに郵送して詳細を知らせた。そして、アンケートに回答、返送してもらった時点で、本研究の趣旨や目的、データ利用、個人情報の保護、倫理的配慮等について理解を得たものと見なすことを明示した。

- ①本調査で知り得た内容を、調査目的以外に用いない。
- ②個人情報を保護するため、研究目的に関する事項以外のことは聞かない。対象者の匿名性を担保する。
- ③回答したくないものには回答しなくともよい、回答しない場合にも不利益は被らない、回答は任意であることを、アンケート票の表紙と同封する資料に記載し、理解を得るよう最大限努めた。

また、本調査（グループインタビュー調査含む）は、東京家政大学研究倫理委員会に「育児期女性の自尊感情とレジリエンスについての調査研究」として審査申請を行い、承認を受けたものである。

3 グループインタビュー調査について

板橋区在住のアンケート調査対象者に対して、アンケート用紙とともに「グループインタビューのお願い」を添付し、グループインタビュー調査の目的・内容等について説明して協力者を募った。この依頼に対して、120人から協力の同意があった。その120人の中で、「個人情報の提供について」の同意があった102人のうち、ランダムに選んだ対象者にメールで日時・場所について連絡し、返答があった対象者にインタビューを実施した。

対象者は10人で、2～4人から構成される合計4グループに分け、各グループ約90分のグループインタビュー調査を行った。グループインタビュー実施日は、2019（令和元）年8月21日、9月7日であった。

グループインタビュー調査の内容は、育児を含む生活の中で日ごろ感じていること（現在の育児の状況、現在の自分に対する思い、過去から現在のライフコースとキャリアと今後の展望、その他育児とワークライフバランスに関することなど）について話題にした。